

05. ズーン別方針

1. ズーン区分の考え方

「まちの将来像」を実現するために、特性や目指す将来像などを基準に検討対象エリアを3つのゾーンに区分した。また、ゾーンはまたがるが、特性や将来像が一定のまとまりを持つシンボル軸と水・歴史資源は別途整理することとした。

◎新拠点ゾーン 「新たな松戸の顔となる便利で魅力あふれる拠点」

特 性：大規模開発の可能性を秘めた駅近傍にある唯一の地区である。
将 来 像：官民一体により大規模な開発が行われ、賑わいあふれる施設や市民サービス機能が充実し、公園と調和のとれた松戸のランドマークとなる複合施設が完成している。

◎商業・業務ゾーン 「歩いて買い物が楽しめる快適できれいなまち」

特 性：古くから本市における交通の要衝として、また商業・業務の中心として多くの人が賑わうまちであったが、昨今は魅力が低下している。
将 来 像：交通結節点機能の強化により利便性が向上するとともに、商業・業務施設の集積や景観形成が図られ、まちとしての魅力が向上している。

◎都心居住ゾーン 「都市の利便と自然のうるおいを感じるまち」

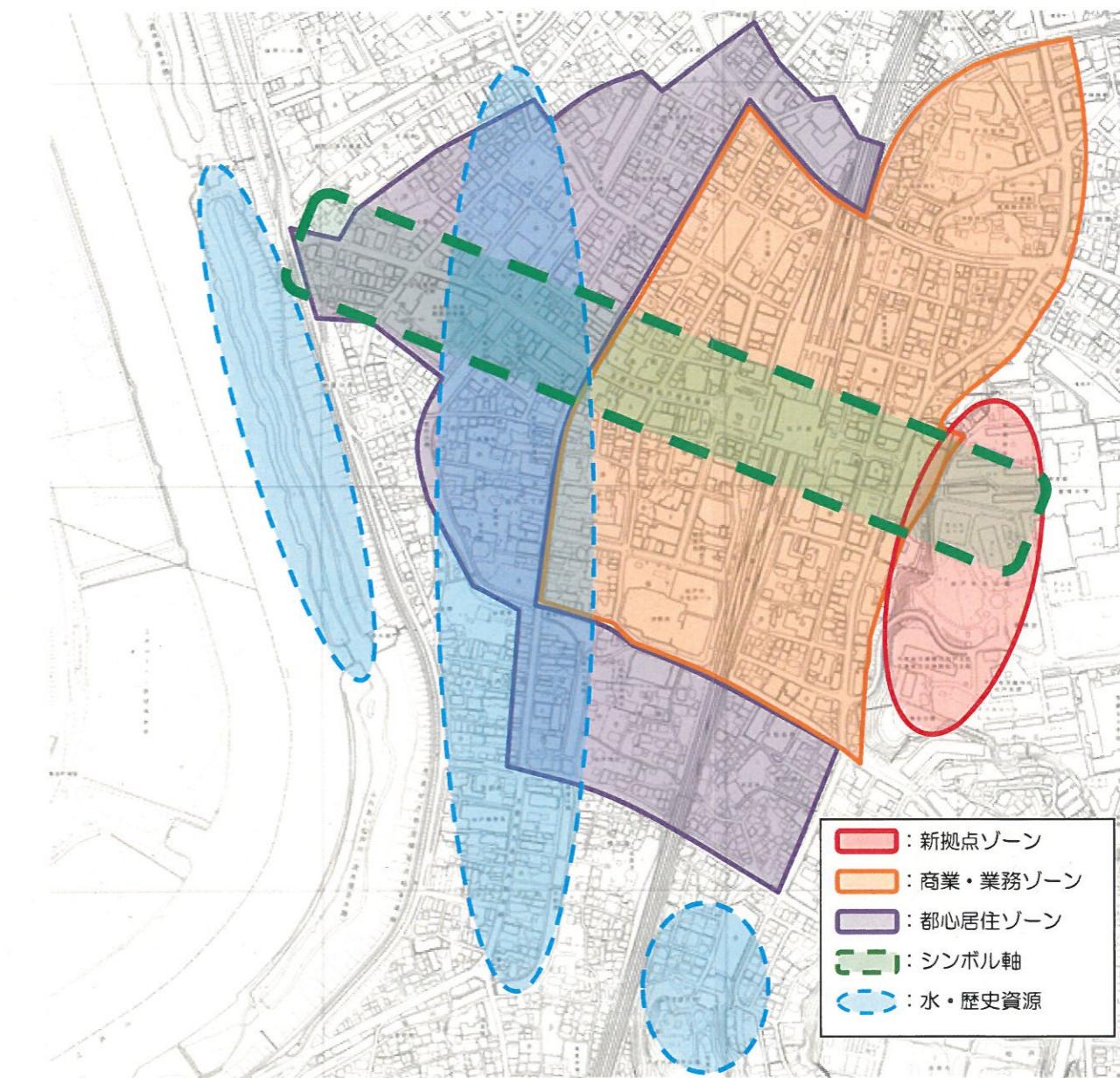
特 性：都内へのアクセスが良好な松戸駅の徒歩圏にあり、住環境として好立地だが、駐車場等の低・未利用地があるなど全体的に高度利用が図られていない。
将 来 像：都市基盤の改善や都心にふさわしい住宅供給の促進により、防災性の向上や土地の高度利用が進められ、居住人口が増加している。

◎シンボル軸 「“にぎわい”と“やすらぎ”をつなぐシンボルロード」

特 性：相模台から松戸駅を経て江戸川へと向かう地域の中心軸に位置しているが、バリアフリー化や景観形成などで課題を抱えている。
将 来 像：台地から水辺までのアクセスが確保されるとともに、周辺と調和した良好な景観が形成され、地域を代表する中心軸となっている。

◎水・歴史資源 「なつかしさと憩いを感じる自然と文化のまち」

特 性：江戸川、坂川などの水辺資源や旧水戸街道沿いの寺社・歴史的建造物、戸定邸などの歴史資源があるなど、多くの地域資源が集まっている。
将 来 像：地域資源と調和した良好な街並みや親水空間などが整備され、多くの人が水や歴史を楽しめるようになっている。



2. ズーンにとらわれない取り組み

- ・松戸駅改良

▽全般的施策

- ・都市基盤の整備
- ・緑化の推進
- ・公共施設再編
- ・良好な景観形成

▽広域的施策

- ・「矢切の渡し」と連携
- ・松戸ー成田空港間の直通運行を要請